

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (国際協力学)	氏名 Author	BIJAN MASKEY
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Municipal Solid Waste Management in Nepal: A Case Study of Gorkha Municipality			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授 清水 欽也	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授 金子 慎治	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 高橋 与志	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 関 恒樹	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 日下部 達哉	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文は、ネパール連邦民主共和国（以下ネパール国とする）ゴルカ郡における固形廃棄物管理（Solid Waste Management:SWM）の現状を明らかにし、その世帯における廃棄物処理に寄与する要因について分析した研究である。</p> <p>1章では、本論で扱う SWM 問題の背景から問題の所在を導出し、本論の目的、意義と限界、及び構成が述べられた。2章では、先行研究のレビューが行われ、ネパール国における SWM 関連政策、同国における関連先行研究、SWM の機能的な要素および戦略的側面についての現状について明らかにした。3章では、本研究の概念的枠組みを明らかにしたのち、目的を達成するための手順や調査地域、データ分析の手法について述べている。4章では、ゴルカ郡で世帯調査を行い、固形廃棄物の発生についての分析を行った。その結果固形廃棄物やリサイクル可能なゴミの排出が多いことも明らかにした。5章では、各世帯の廃棄物分別に対する意思決定の要因について、質問紙調査およびロジスティック回帰分析により明らかにした。その結果、環境意識、廃棄物収集サービスへのアクセスの有無、改善策に対する費用負担への意思の有無（Willingness to Pay: WTP）、コンポスト利用の有無などが有意な要因として抽出される一方、性別などはこれらの要因と比してあまり大きくない要因であることが明らかとなった。6章は、WTP に対する要因分析を行った。その結果、月収、教育年数、環境意識、廃棄物処理サービスの有無が有意な要因として抽出された。また、費用負担可能額については 0.72US ドルであり、これは他の研究で明らかにされたエチオピアとほぼ同額、バングラデシュよりは多く、ウガンダより少額であることが明らかにされ、これらの額に影響する要因については、月収、環境意識、廃棄物処理サービスの有無であることが明らかにされた。7章では、政府から支給されたコンポスト容器の活用状況について調査した。56%は現在も使用しており、29%は全く受け取っていないか、まったく使ったことがないことが明らかにされた。</p> <p>以上のような内容を持つ本論文は、ネパール国の地域レベルの環境問題解決に対する新たな知見を提供する有意義な研究と評価され、本論文の著者は博士（国際協力学）の学位を授与される十分な資格があると認められる。</p>			